



経営革新計画や補助金を活用し 事業承継につながる新サービスを実現

課題

2代目の後継者が 家業の改革に着手

株式会社ENDO（オートショップ エンドウ）は、現経営者の父親が創業し、自動車修理を中心に地域に密着した事業を展開してきた。

大手ディーラーで経験を積んだ後継者（現経営者）が2013年から家業に従事。一貫したサービス提供で顧客満足度の向上を目指し同業他社との差別化を図るべく、積極的な事業展開に取り組むようになった。

そんな同社から、車検指定工場の登録とクイック車検サービスを始めるための設備導入にもつくり補助金を活用したいと相談を受けた多可町商工会では、同時に事業承継も見据え、経営課題の解決につながる経営革新計画への取り組みを提案。計画書策定などの支援が始まった。

支援

カフェスペース併設などの 取り組みで売り上げが4倍

経営革新計画では、新たに設置した商談・カフェスペースを女性客の取り込みや顧客との接点を増やすための「カーコンサルジュカフェ」と位置付けることを提案。これは、店内にカフェスペースを設けて、同社スタッフが「カーコンサルジュ」として、自動車のあらゆる相談や悩み、要望に対応するサービスである。2014年、この経営革新計画は承認された。

ものづくり補助金についても同年、1次公募が不採択だったものの2次公募で採択を受け、車検設備一式を導入。車検指定工場となり、最速30分でのクイック車検サービスをスタートした。商工会では、これらの計画を実現するための資金調達についても支援を行った。

そして経営革新計画やものづくり補助金の取り組みを機に、同社は2015年、事業承継とともに法人を設立。その際、商工会では計画作成とともに資金繰り支援（中小企業経営力強化資金）も実施した。このほか同社は、商工会の支援のもと2014年から3回連続で持続化補助金を活用。看板作成や外壁塗装、ホームページ製作を行っている。

こうした取り組みにより、2013年から2017年までの4年間で売り上げは4倍に増加。車検指定工場に登録されたことなどで、ブランド力の向上にもつながっている。「車検指



ゆっくり相談ができるようになった店内の商談・カフェスペース

定工場化は、父の夢だった。補助金が採択されてから父が経営を任せてくれるようになった」と経営者。

今後も顧客とのコミュニケーションを重視しながら、法人営業へも注力していき、さらに地域に密着したトータルカーサービス店を目指すという同社。

そのためには、労働環境の整備や優秀な人材確保・育成も進めていく必要がある。こうした課題に商工会は今後も伴走型支援でサポートしていく。

支援の経過

期間	支援内容
2014年2月～3月	ものづくり補助金の申請支援（不採択）
4月～8月	経営革新計画の策定支援（承認） ものづくり補助金の申請支援（採択）
2014年、15年、16年	持続化補助金の申請支援（採択3回）
2019年6月	ものづくり補助金の申請支援（採択）

会社概要

会社名：株式会社ENDO
 住所：兵庫県多可郡多可町中区岸上12-1
 電話番号：0795-32-1637
 URL：http://autoshop-endo.co.jp
 代表者名：遠藤広章
 創業年：2015年
 従業員数：8名
 商工会名・担当者名：多可町商工会・横畑沢磨